

日程 令和6年10月21日(月)～23日(水)

研修テーマ(研修先)

### 1、利府町：文化複合施設(リフノス)

リフノスでは図書館内の閲覧室、児童コーナー、学習スペースなどを視察しました。明るく開放的な空間で、多くの利用者が快適に過ごせる環境が整っていました。特にドーム型のお話の部屋は特徴があり、子ども達だけでなく大人もわくわくする空間であり、絵本などの世界に入りこめる工夫がされており素晴らしい環境でありました。是非岬町でも取り入れたい施設です。運営面でも参考になることが多く、利用者からのフィードバックを受け、定期的に開催されるイベントや講座についても話を伺いました。図書館で一泊する企画が大人気で抽選倍率が高いとのことで、利用者からの要望から実現した企画とのことでした。利用者の声を施設運営に反映する仕組みづくりの重要性を再確認しました。

岬町議会においても公民館・図書館等建設整備検討委員会が設置されています。住民みんなで支え成長する拠点づくりをめざし検討していきたいと思います。

### 2、陸前高田市：議会BCP

現在岬町議会で議会BCP(事業継続計画)を策定中のため、実際に東日本大震災を経験した議会のBCPの内容や当時の議会などの話を聞くことができた大変貴重な研修でした。特に災害時の議員の初動役割について、まず議員は行政の邪魔をしないことが重要だと話されていました。以前より私が災害対策本部等への議員各自からの支援要請や要望を入れることが、災害本部の円滑な活動の弊害になると何度も発言してきたことが間違いでなく、情報の一本化が初動においては大切だと言うことが、参加した議員に周知される良い機会となりました。陸前高田市の議長さんが2名の議員の方のお話しをしてくださいました。2名の方は毎回一般質問で周りの人がまた津波の話かと言われるほど、何度も何度も避難や防災の重要性について訴え続けた人で、地震時も市民のために最後まで避難を呼びかけ活動し亡くなられたとお話してくださいました。この2名の方のぶれる事のない議員としての信念が多くの方の命を救ったと私は思います。この意志を引継ぎ、私自身も防災について常に先頭で声をあげ続ける議員でありたいと思います。

### 3、大槌町：震災復興(語り部ガイドツアー)

今回の視察研修で熱望し実現していただいた大槌町での研修でした。前職の消防職員時に東日本大震災時に緊急消防援助隊大阪部隊として派遣され活動した地であり、この目で現在の震災からの復興状況を是非見たかった場所でありました。本当に当時は津波に押し

つぶされて瓦礫の山であった町が整備され、大槌町役場があった場所も建物が無くなり空地になっていました。語り部ガイドさんから役場庁舎の解体時に起こった、小さな町が二分するほど意見が対立した話を聞き、改めて住民の気持ちに寄り添いながら復興していく事の困難さを知ることができました。また津波時の避難経路も実際歩き経験することにより、年配の方や足の不自由な方への配慮ももっと考えねばならないと感じました。岬町においても今一度点検し誰もが避難できる町づくりを訴え活動していきます。

#### 釜石市：DMOによる観光地域づくり（オープンフィールドミュージアム釜石）

オープンフィールドミュージアム釜石は、釜石市が地域の文化や歴史、自然を活かした観光資源として整備したプロジェクトであり、この取り組みにより、地域の魅力を発信し、観光客を呼びこむことを目的としていました。地元アーティストや職人によるワークショップや展示を通じて、地域の芸術文化を体験できる機会を提供する。また釜石の美しい自然環境を活かしたハイキングや海のアクティビティを組み合わせたツアーを実施するなど、地域の文化や自然を活かした観光地域づくりがされていました。岬町においても地域住民との協力を得ながら持続可能な観光モデルの確立を今回の視察で得た知見を基に目指したいと思います。

#### 紫波町：公民連携による公有地一体的利用（オガールプロジェクト）

行政と民間企業が一体となってプロジェクトを進める公民連携（p p p）の手法を用い、複合施設を建設し運営し、プロジェクト開始から10年で年間100万人ほどが駅前のオガールエリアを利用するほどの施設に成長し、多くの人で賑わいを見せている施設である。

我々は施設内にある宿泊施設に宿泊しました。併設する全国的にも珍しいバレー専用コートとがあり平日にも関わらず多くの学生さんで賑わっていました。

この事業の特徴的な点は、収益事業部分である不動産開発を逆算方式で行っている点であると説明を受けました。通常の不動産開発は建物の設計が終了し、建設が進んでからテナントを誘致することが多いが、この方法だとテナントが入るのか不明確なままで計画が進められてしまい、実際にもテナントが埋まらずオープンして当初の予定どおり進まず頓挫する事例など発生している。

オガールプロジェクトの逆算方式は、まず賃料相場を確認した上でテナントの誘致を開始し、需要に対して適切な必要床面積を設定、建築工事することで事業の設定利回りに適した工事価格を決定できる。さらに先にテナント誘致を終わらせていることで、工事開始の時点だけでなく、オープン時点でも入居率100%を実現することができている。

従来のまちづくりは補助金に頼った地域の需要に見合っていない事業が多くみられる。今後の岬町ではオガールプロジェクトを参考にし、民間企業とともに稼げる町づくりを模索し、持続可能な町づくりを目指していきたいと思います。

#### 紫波町：議会改革

紫波町議会の議長及び議会運営委員長より、紫波町議会の議会改革の取り組み内容や意見交換を実施しました。ハラスメント防止条例制定に至った経緯を質問されたので、制定に対する思いや経過を説明させていただきました。